

【令和四年度 自己評価・学校関係者評価報告書】

学校法人名倉学園
愛心幼稚園

1. 教育目標

幼児期にふさわしい生活や遊びを通して、主体的・対話的に学ぶ環境を整え、幼児の興味や関心に基づいた実体験による学びや、友だちや教師との温かく共感的なかわりから得られる信頼関係を大切に、『生きる力』の基礎を養う幼児教育を目指している。

◎目指す人間像

- ・自分の周りのひとや環境に、愛情と関心をもってかかわろうとする
- ・見たり聞いたり感じたことを創意工夫して表現できる
- ・自分で考え人と話し合い力を合わせて物事にとりくむ

2. 年間の重点目標・計画

昨年に引き続き、園内での新型コロナウイルス感染拡大防止のため、換気や消毒等の必要な予防対策をとり、園内の安全面や衛生面を見直し、園児の遊びや学びの機会をできる限り確保できるように園生活や行事の方法を検討し工夫する。園生活の様子を、IT 機器も使用しながら保護者に伝え、家庭と連携しながら、コロナ禍での園児の心身の健やかな育ちを援助できるように努める。

3. 評価項目の達成および取組み状況

評価項目	結果	理由
園児の遊びや生活の安全面で見直しが必要に感じられることを教職員間で共通理解を図り、解決策を考える。	B	日常の中で、職員が各自のヒヤリハットとを感じる場面を共有し、解決策を共に考えることができた。園庭の大型遊具の安全面について、専門の業者によるアドバイスを得て今後、新たな遊具の導入も検討していく。
保育中の衛生管理を見直し、消毒作業や予防対策をしながら、園の教育活動をより活気のある充実した内容にする。	A	トイレや保育室内の共有部分や保育後の遊具の消毒作業を、全教職員で協力して毎日欠かさずするように努めてきた。感染状況をみながら園庭やテラス等の屋外での楽しい遊びやイベントを多くする等の工夫をしてきた。
コロナ状況下の制限がある中でも、園児が心身の健康を保ち実りある園生活を送れるように、保護者への情報発信に努め、各家庭とよく連携して、日々の保育を行う。	A	‘密’になりそうな場面では、クラスを少人数のグループに分けて活動や遊びを行い、換気に努め、昼食時は引き続き仕切り板を設置し、園児に黙食を呼びかけてきた。手洗いやマスク着用、体調管理の大切さを保護者会やお便りで各家庭に呼びかけ、保護者と連携してコロナ対策に取り組むことができた。
教育課程に基づいた指導計画の内容を、各学期末に見直しながら、教育の質向上に努める。	B	遠足、運動会、クリスマス会、発表会、等の大切な行事を場所や方法を工夫して実施した。また、日常の園生活も園児が豊かな体験を多くできるように内容を吟味してきた。毎学期末に反省会を行い、教育内容を見直した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	引き続きコロナ禍の状況の中であっても、園児の心身の健康の維持と幼児期にふさわしい遊びの中の学びを確保できるように、園内の教育環境を整え、活動や園生活の方法を検討し、実施してきた。状況に応じて感染対策をとりながら、行事への保護者の参加人数を増やしたり、園児同士の温かい交流の場を設けることに努めてきた。園内の衛生面や安全面、教育内容については、各学期終了後の園内研修で、教職員全員で見直し、遊具や教具の出し方や安全な遊び方を確認しながら日々の教育活動に活かすようにした。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	専門業者等から得たアドバイスに基づいて今後、園庭遊具を見直し、新たな遊具の購入も検討していく。園児の遊びの状況を、教職員間で確認しながら、より安全な園生活のあり方を、継続して考えていきたい。
個別の支援を必要とする園児への教育方法を考え、実施する。	園児の発達理解のため、まず保護者とよく面談をして情報交換に努め、関係機関と連携しながら個別の指導上の留意点を考え、指導計画を作成し日々の保育を実施する。園児の状況に応じて保護者と相談しながら指導計画を随時見直し、臨機応変に対応していきたい。
コロナ状況が落ち着いてきた後の園生活が再び活気ある豊かなものになるように検討し、保護者の理解と協力を得られるようにする。	必要な感染予防対策をとりながら、コロナ禍で実施できなかった異年齢の園児交流の場を設けたり、保護者の園行事や保育参加への機会をさらに増やしていく。保護者会やクラスだより、IT機器なども使用しながら、各家庭へ園での子ども達の様子を伝えて、園生活への理解を深め、保護者同士の情報交換等の場を設けていく。

- 評価基準
- A 十分に成果があった
 - B 成果があった
 - C 少し成果があった
 - D 改善が必要

6. 学校関係者評価委員会の評価

教育水準向上支援事業についての学校関係者評価

I 「生命を学ぶ」

- ・幼稚園ではなかなかみられない、蚕の飼育はとてもいいと思う。
- ・前の年の卵を保存して羽化させる命の循環や、生糸をとる為と、次の蚕を産むための成虫を選ぶなど、命の選別をしなければならないなど、ただ育てているだけではなく、命の不思議さや大切さを学ぶ機会となっているところが評価できる。
- ・土づくりから水やり、収穫まで子どもたちが自分で行う事により、家では苦手なトマトやピーマンが食べられるようになった。
- ・野菜の土づくり、苗植えから収穫、クッキング、そして、描画などの造形まで体験に基づいた保育活動が素晴らしい。
- ・カメのホームステイで、1日中観察ができて、とてもかわいくお世話が楽しかった。
- ・家庭では飼育できない、いろいろな小動物に触れあう事ができた。

II 「ネイティブスピーカーによる英語指導」

- ・カリキュラムに沿い、様々な指導法により、幼児の発達に合わせて継続的に英語に触れる機会が用意されていた。
- ・園児たちが英語指導のある曜日を楽しみにし、指導時間以外でも講師と親しくかわり英語で話そうとする姿が見られた。
- ・「英語の日を楽しみにしている」「フォニックスは家で教えられないから良い」「英語が特別なものという感じがなくなり、慣れてきた」等の保護者からの評価があった。
- ・幼児が楽しみながら、英語に親しみ、異文化への興味を広げている点が評価できる。
- ・指導日の後の、動画配信や復習用プリントなど、家庭学習ができる工夫がされている。
- ・当園で実施している『英語指導』が異文化に親しむ機会として、また就学後の英語学習の基礎として有効であると考えられる。

総 評

今年度前半は昨年度同様、新型コロナウイルスの感染状況により行動制限が続いたが、後半になるにつれ、少しずつ収束の兆しがみられたので、お誕生会など保護者が参加できる保育活動が増えてきた点は良かった。

また、季節の行事に関しては、今年度も時期や活動内容、方法を変更しながら実施に向けての努力がみられた。

保護者の観覧制限は、昨年度より少し緩和されたので、その点に関しては良かったが、子どもたちがマスクを着用しながらの発表会は残念な一面もあった。来年度に向けては、マスクを着用しない状態で、行事を行えるように切望しています。